



公益財団法人龍河洞保存会
会長理事

岡村錦一さん

龍河洞を多くの方に 楽しんでもらいたい

昭和40年代の後半には年間100万人の方が龍河洞を訪れていたという記録が残っています。知事の言葉を借りると『高知県観光の4番バツター』でしたが、近年は、入洞者数10〜11万人で推移しています。

1億7500万年という時間が作り出したこの神秘の鍾乳洞は、高知県内でも最も感動できる場所の一つだと思っています。

今回、市民の皆さん、龍河洞みらい、県や市からの協力を得て、『新・龍河洞』に踏み出しました。

龍河洞は市民・県民 が受け継いできた宝

わたしたちが龍河洞に関わらせていただくようになって以来、常に意識しているのは、龍河洞が市民・県民の皆さんが世代を超えて受け継いできた『誇り』であり、『宝』であるということです。

わたしたち龍河洞みらいが取り組んでいることは、音楽や光を用いて、龍河洞が本来もっている魅力・素材を現代のお客様の心に感じていただきやすくすることです。鍾乳洞や洞くつ空間、原生林のような森林、そこに住んだ祖先の生活跡、龍河洞に関する伝説など、守り継がれてきた魅力を最大限に活かし、まずは市民・県民の皆さんに親しんでいただいて、そして全国・全世界へと発信していきたいと考えています。そして、それを次の世代の若者や子どもたちに受け継いでいく支援をしていきたいと思っています。そのためには、まずは地元の市民の皆さんに龍河洞が地域の宝



▲昭和38年の龍河洞の様子

快適な龍河洞観光を

『新・龍河洞』にあたり、私たち保存会が行ったことは、『安全対策』と『利便性向上』です。

◆安全対策

今までも入洞者の安全には留意してきましたが、鍾乳洞は自然の造形物のため、どうしても転倒などの危険が付きまといまいます。

そこで今回は、できるだけ安全に鍾乳洞の見学をしていただけるよう、さまざまな安全対策を行いました。手すりの増設や鉄板道路・階段の滑り止め加工、また、万が一のため、緊急搬送・救急用トロッコの改修も行いました。また、苔防止のライトを照らすことで、苔の繁殖を抑え、滑りにくくしています。もちろん、苔防止ライトは鍾乳石や洞内の生態系に影響を与えないように工夫しています。

◆利便性向上

洞内での撮影画像をすぐにSNSにアップしたいというニーズに応えるとともに、災害時の有効な通信手段として、また、近年は、クルーズ船などを利用して、中国、ヨーロッパ、アメリカからのインバウンドの観光客も増えているため、洞内のWi-Fi環境を整備しました。

また、『デジタルサイネージ（電子看板）』を導入しました。これにより、洞内における注意喚起、現在地の情報、災害時における避難経路の明示等が可能となりました。



▲デジタルサイネージ

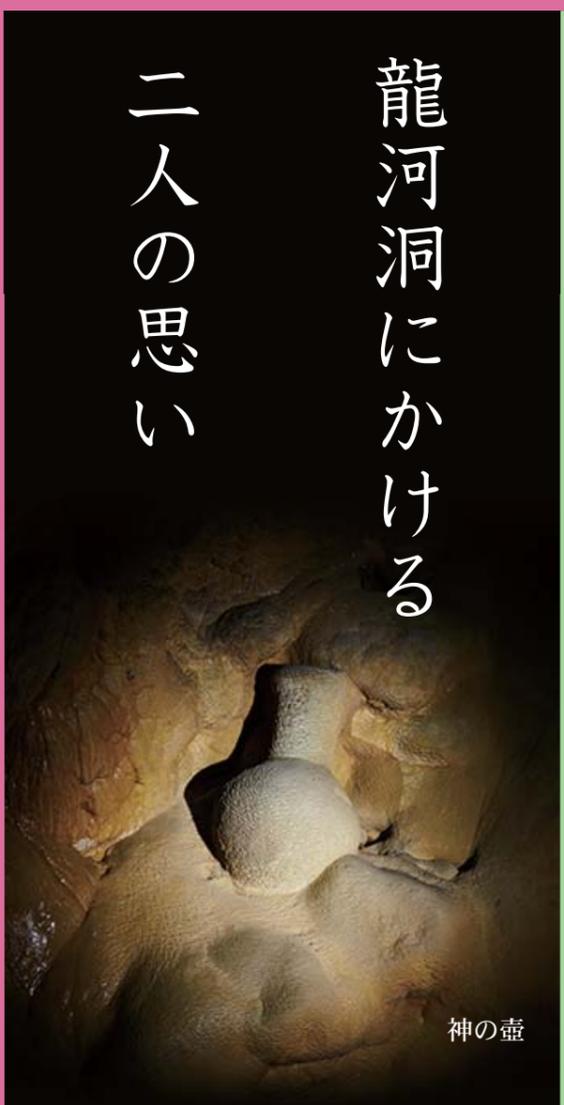
何度も訪れたくなる 場所へ

龍河洞は一度見たら代わり映えもないので、しばらく来なくてもよいと思う観光客の方が多いように思います。

何度も訪れたくなる場所にするためには、どうすればよいのか。私が思うに今後、龍河洞が『常に進化』し、『快適に観光』ができる場所となっていく必要があると思っています。

今回、『新・龍河洞』がスタートし、洞内のライトアップやプロジェクトンマッピングなどで変化・進化を起し、安全面の強化も行いました。トイレの改修や休憩施設を建設するなど、快適に過ごしていただく準備も整えることができました。ただ、これで終わりではありません。私たちはこれからも常に進化していかなければなりません。

私たち龍河洞保存会は、3年後に、年間15万人のお客様を迎えることを目標としています。



二人の思い 龍河洞にかける

であることを少し思い出していたら、お子様、お孫様に語りついでいただくような、そんなきっかけをお届けできたらと考えております。

『心の中の探求により新たな内面的な発見・気づきを得ていただく』体験を提供することで、何度も足を運びたくなる体験型観光スポットへのREBORN（生まれ変わる）に挑戦していきたいと考えています。



▲鍾乳洞入り口

体験型観光施設へ

今まで、龍河洞は見て楽しんでいただく観光スポットという色合いが強かったように思いますが、今回の新・龍河洞では、体験型観光スポットとして認知を進めたいと思っています。具体的には、照明・音響・映像などによる演出で、龍河洞の冒険をストーリー化、



▲裏見の滝

ですが、演出といっても派手なものではありません。もともと龍河洞は本当に美しいものです。私たちは、守り継がれてきた本来の龍

龍河洞を守りながら、洞内の生態系に配慮し、少しでも演出を加え、お客様により美しい鍾乳洞を感じていただきたいと考えています。

龍河洞はこれから もっと面白くなる

今回、県・市から支援をいただき、洞内にさまざまな舞台装置を設置することができました。また、周辺

エリア全体の活性化を考える『龍河洞エリア活性化協議会』でもさまざまな議論がなされています。高知大学地域協働学部の大学生も参画し、若いチカラも加わりました。龍河洞という場所のできる可能性は広がってきています。私たちは、これから龍河洞と一緒に盛り上げ、次世代に受け継いでいく仲間を探しています。「こんなこともできる」などの意見や提案があればぜひ、いただきたいと思っています。

私たちと一緒に、市民の皆さんで龍河洞を守り、次の世代に受け継いでいきませんか。



株式会社龍河洞みらい
代表取締役社長

古川陽一郎さん